

東洋炭素株式会社

2012年5月期第2四半期 決算説明資料

2012年1月

東洋炭素株式会社

東洋炭素株式会社

2012年5月期第2四半期 決算説明資料

第1部 連結決算概要

専務取締役 中原全生

ポイント1

環境・エネルギー分野をはじめとする幅広い用途・地域での拡販と、高付加価値品へのシフトを含む価格の底上げも寄与し、半期として過去最高の業績を達成

ポイント2

中国を中心とする新興国需要が大幅に拡大、海外売上高比率は64%に（アジア比率は48%）

ポイント3

歴史的な円高や高水準の減価償却費負担の影響あったものの、生産性向上努力も奏功し、20%水準の経常利益率を確保

ポイント4

さらなる円高と、足元の太陽電池市場の調整を織り込み、通期予想は据え置き

第1部 2. 2012年5月期第2四半期 業績

(単位:百万円)

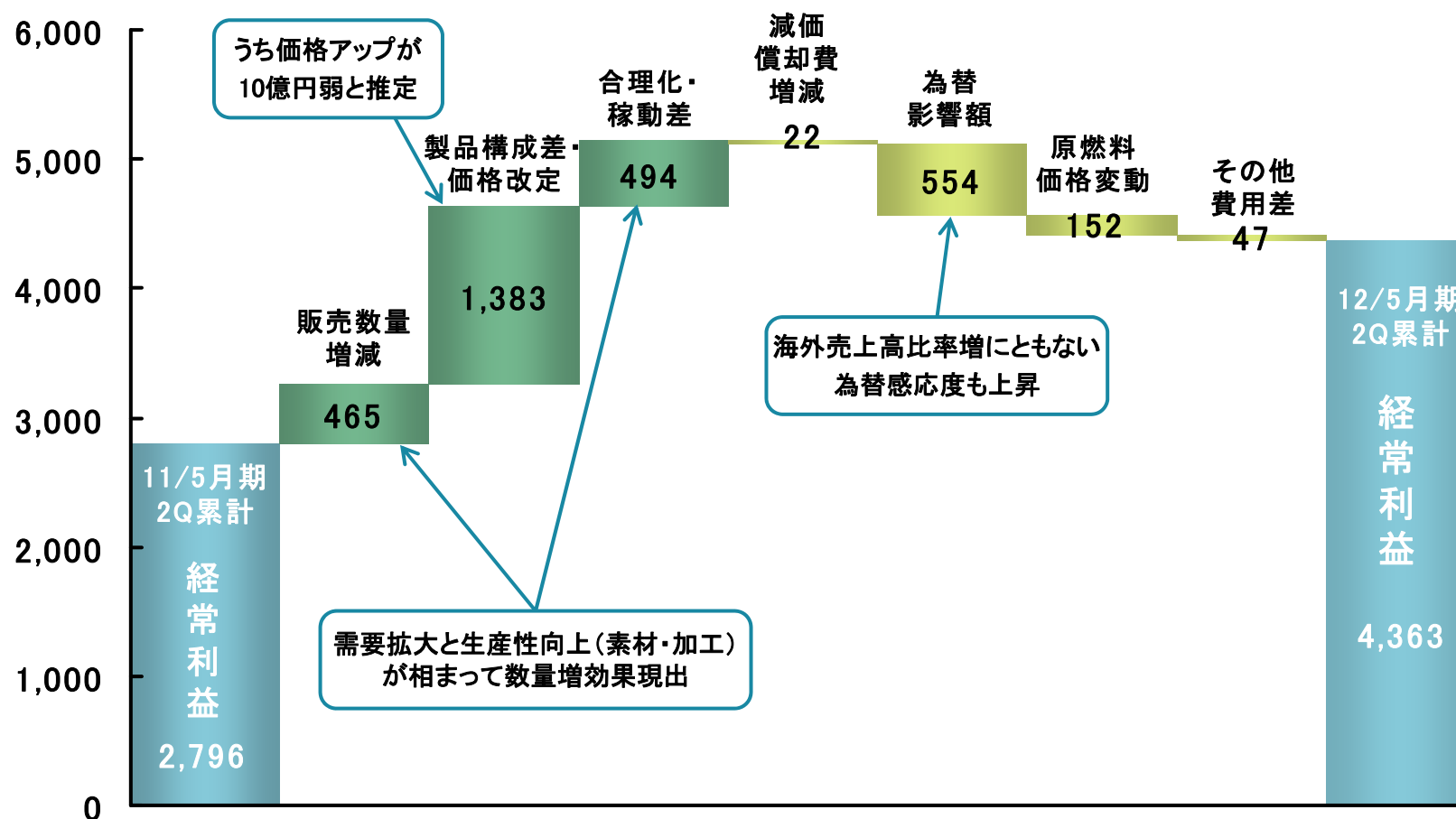
	11/5月期 2Q累計	12/5月期 2Q累計	増減額	増減率	ポイント
売上高	18,413	21,535	3,122	17.0%	①売上高 円高による目減りをはね返し、 半期として過去最高となる215 億円の売上を達成。
営業利益	3,019	4,411	1,391	46.1%	
(売上高営業利益率)	16.4%	20.5%			
経常利益	2,796	4,363	1,566	56.0%	②経常利益・営業利益 円高ならびに高水準の減価償 却負担の影響あったものの、 20%水準の利益率を確保。
(売上高経常利益率)	15.2%	20.3%			
第2四半期 純利益	1,916	2,383	466	24.4%	③第2四半期純利益 移転価格税制に基づく追徴税 額5.4億円を計上。
1株当たり 第2四半期 純利益	92円45銭	114円98銭			
為替レート	85.5円/\$ 111.6円/€ 13.1円/人民元	78.0円/\$ 109.4円/€ 12.3円/人民元			

第1部 3. 経常利益増減要因

(2011年5月期2Q累計 vs 2012年5月期2Q累計)

為替の影響増大するも販売・生産量増と
価格底上げ(MIX改善含む)が寄与し大幅増益

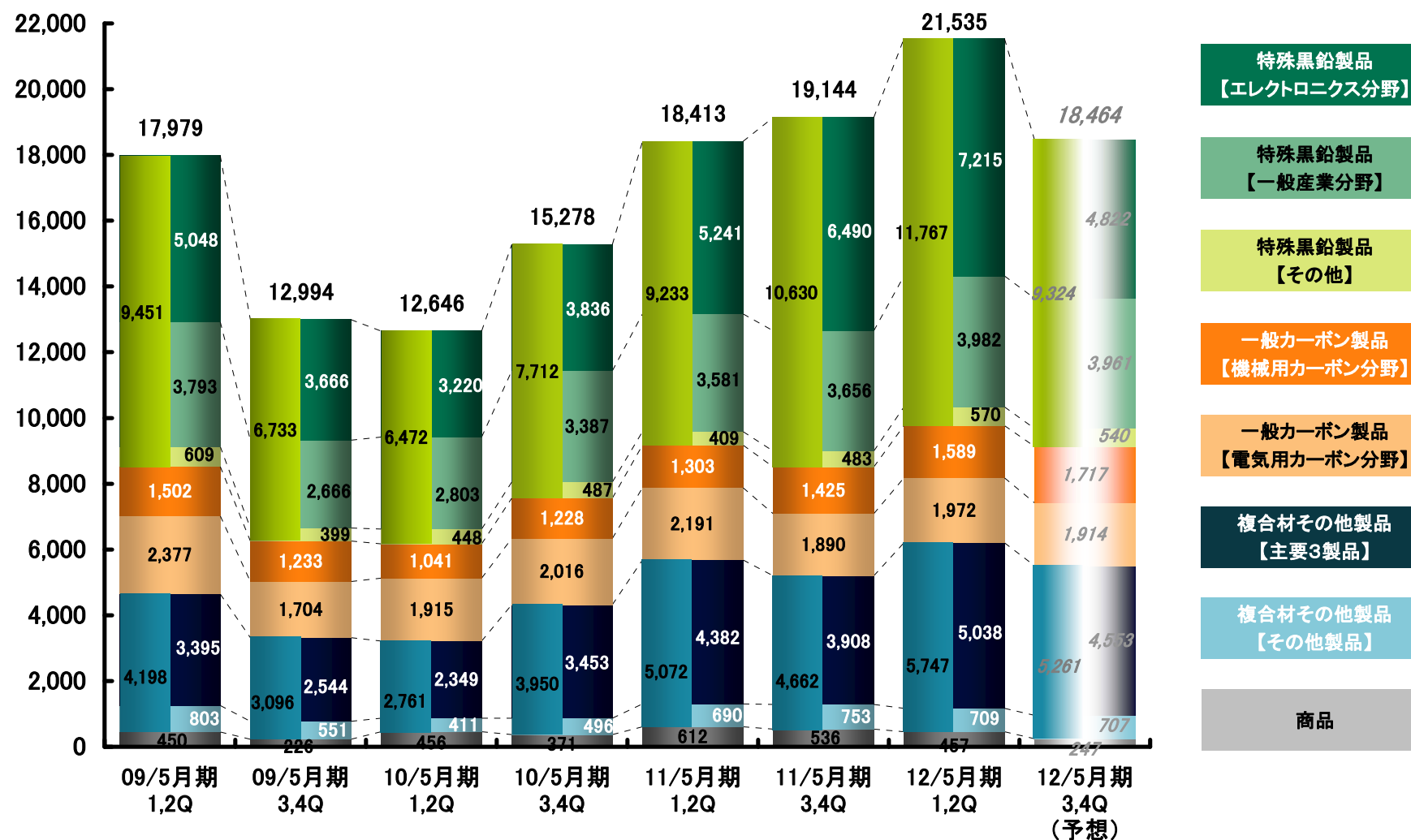
(単位: 百万円)



第1部 4. 売上高内訳 製品・分野別

エレクトロニクス分野(太陽電池)・複合材(C/Cコンポジット)に加え、 一般産業用・機械用カーボンも順調に拡大

(単位:百万円)



第1部 5. 2012年5月期 業績予想

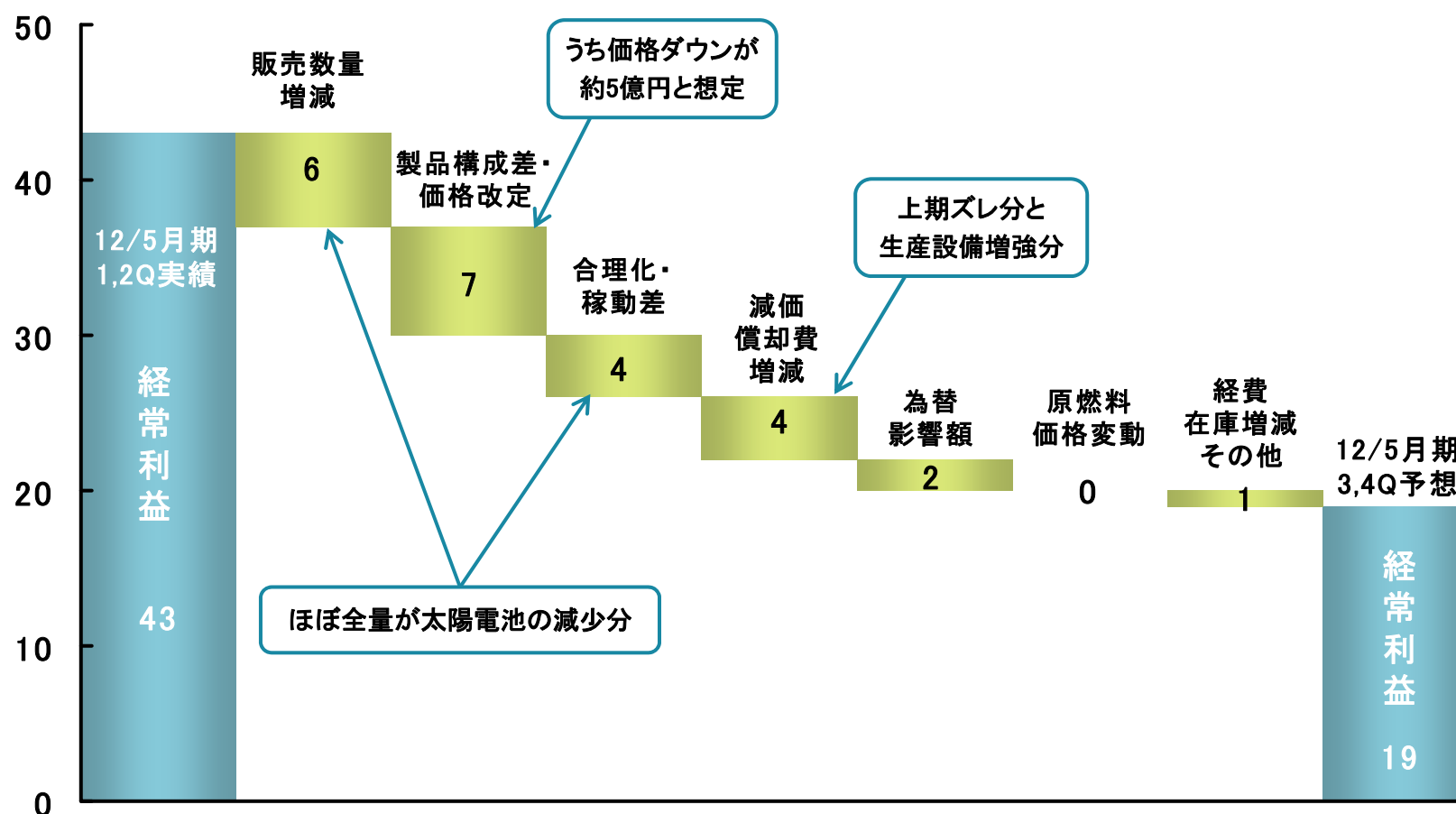
(単位: 百万円)

	11/5月期	12/5月期	増減額	増減率	ポイント
		予想	内訳		
売上高	37,557	40,000	1,2Q実績 21,535 3,4Q予想 18,464	2,442 6.5%	①売上高 足元の太陽電池市場の調整を織り込み、上期比14%減と想定。円高による目減りも影響。
営業利益	5,868	6,300	1,2Q実績 4,411 3,4Q予想 1,888	431 7.4%	
(売上高営業利益率)	15.6%	15.8%			
経常利益	5,614	6,300	1,2Q実績 4,363 3,4Q予想 1,936	685 12.2%	②営業利益・経常利益 売上高減少にともなう限界利益減と、販売価格ダウンを想定。
(売上高経常利益率)	14.9%	15.8%			
当期純利益	3,699	4,000	1,2Q実績 2,383 3,4Q予想 1,616	300 8.1%	
1株当たり 当期純利益	178円43銭	192円92銭	1,2Q実績 114円98銭 3,4Q予想 77円94銭		
為替レート	84.0円/\$ 112.8円/€ 12.8円/人民元		1,2Q実績 78.0円/\$ 109.4円/€ 12.3円/人民元 3,4Q予想 75円/\$ 100円/€ 11.4円/人民元		

第1部 6. 経常利益増減要因 (2012年5月期 1,2Q実績 vs 3,4Q予想)

太陽電池の調整にともない数量・価格ダウンを想定
減価償却費・為替影響額の増大も含めて下期は減益に

(単位: 億円)



東洋炭素株式会社

2012年5月期第2四半期 決算説明資料

第2部 今後の経営方針

代表取締役 近藤尚孝

1. 多用途展開の推進

- ① 機械用カーボン分野の拡販（生産体制拡充）
- ② 自動車関連用途の展開強化（EV・ハイブリッド含む）
- ③ 風力発電用途の展開推進

2. C/Cコンポジット製品の事業拡大 —アプリケーション拡充・新工場活用

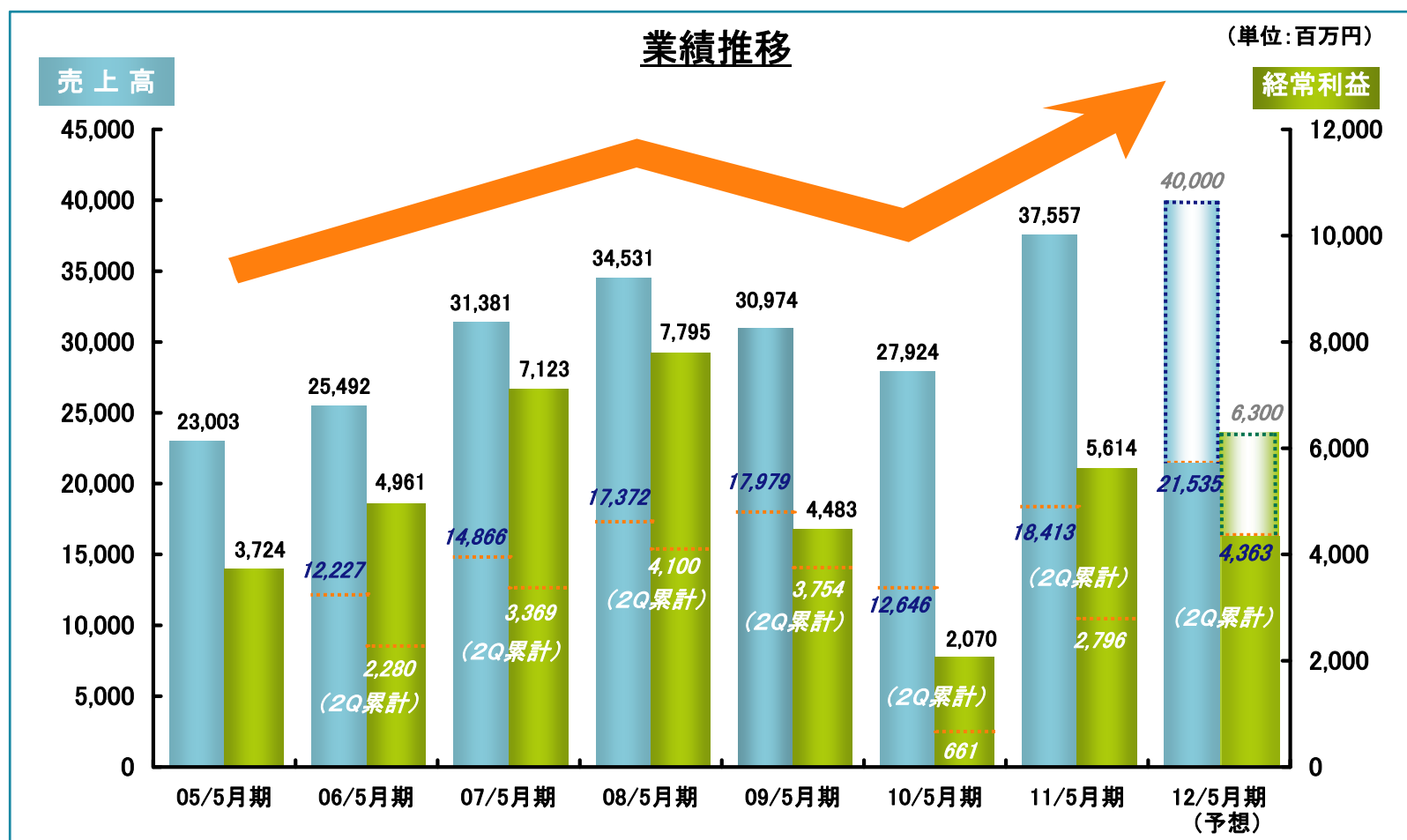
3. 円高対応力の強化

- ① 海外生産拠点の新設・増強検討
- ② グローバル調達の推進（原材料・副資材・製造設備）
- ③ 国内生産拠点・設備のコスト競争力の徹底強化
（再配置・自動化・S&B含めたりエンジニアリング）

4. 新規先端材料の開発・用途展開推進 —多孔質炭素・MBC・CBC等

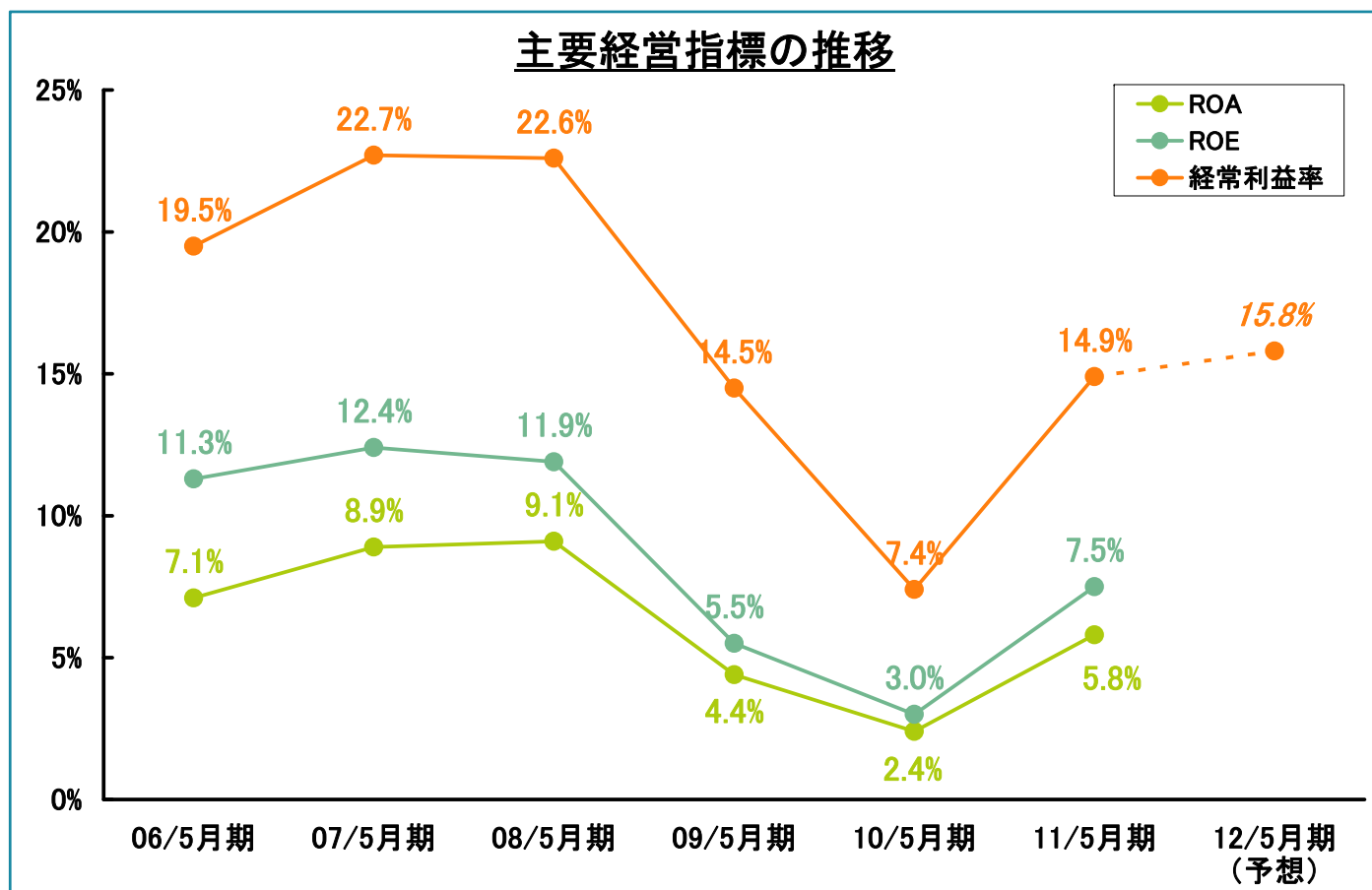
1. 成長路線の堅持

上期は売上高・利益とも大幅続伸。一時的調整あっても成長路線は堅持。



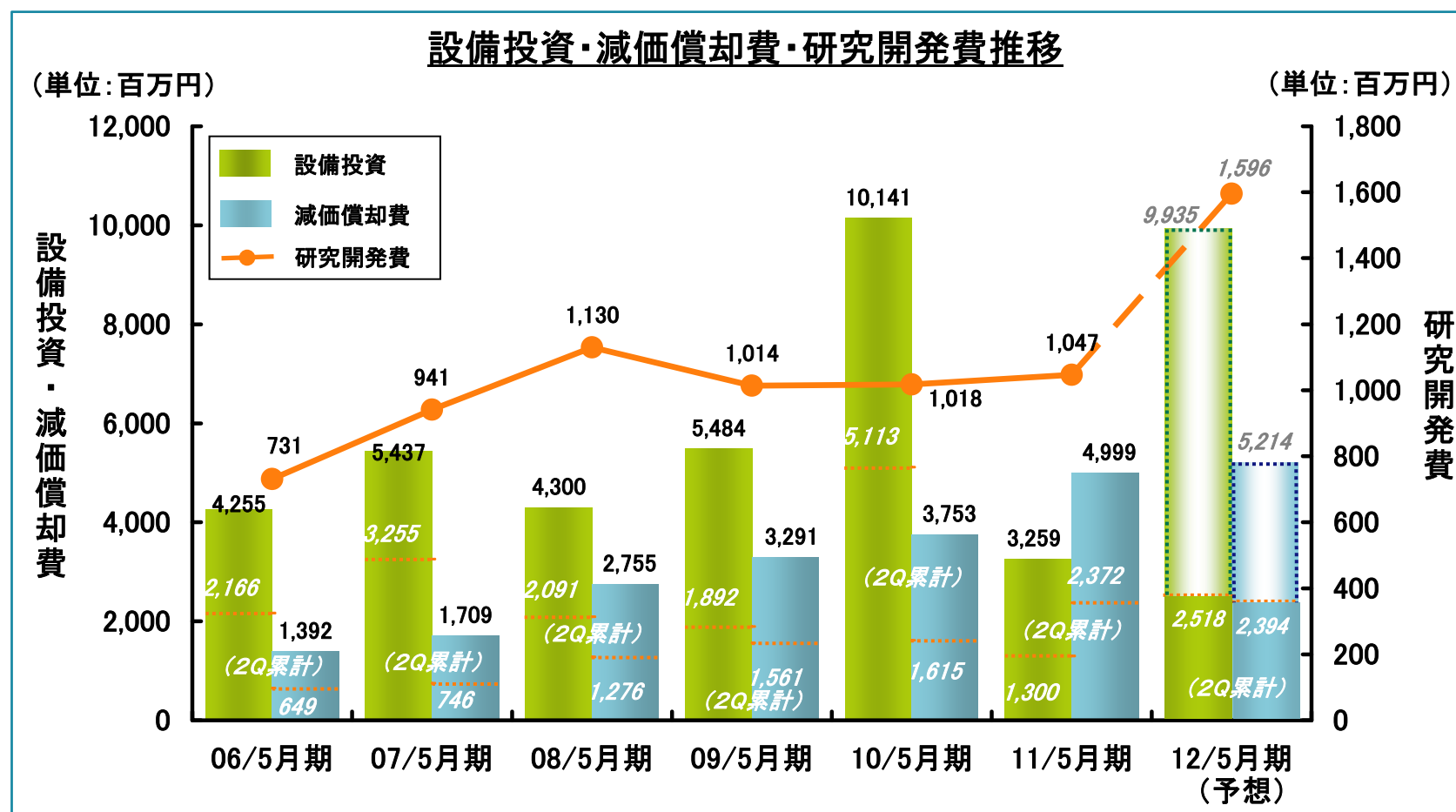
2. 高収益・高効率企業を志向

経常利益率は15%水準を確保(上期実績は20.3%)。
ROEは将来的には二桁水準をベンチマークに。



3. 質・量両面での積極的拡大と戦略的投資

上期の投資・償却費は一部ズレ・圧縮もあり当初計画比減なるも
通期では微減の予定。積極投資スタンスを堅持。



3. 質・量両面での積極的拡大と戦略的投資

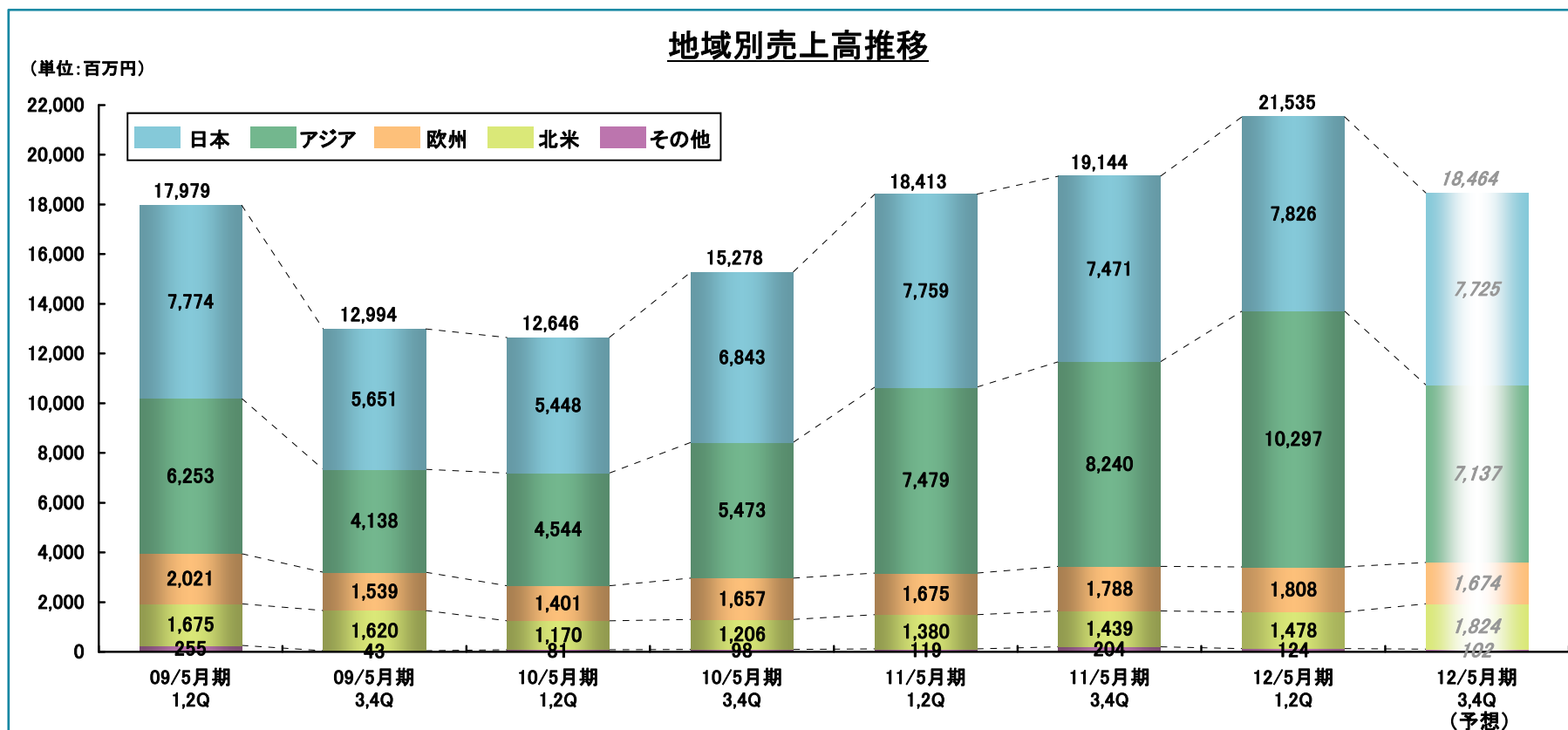
戦略的大型設備投資と研究開発投資は計画通り実施。
(一部VA・仕様見直しによる圧縮は推進)

主な戦略的設備投資

	等方性黒鉛 新工場拡張	C/Cコンポジット 新工場建設	コーティング 生産体制の拡充	研究開発インフラ ・体制の拡充
生産規模	現状比「約2割増」	現状比「約2倍」	第1期 2009年比「約3倍」 第2期 さらに「約3割増」	【概要】 ①最新鋭の製造研究設備の導入 ②環境・エネルギー分野関連投資の実施 ③開発体制の強化・拡充
稼働時期	2013年5月期期初～ (売上フル寄与は同2Q予定)	2012年夏～2013年夏 (段階的に増強)	第1期 2011年春稼働済み 第2期 2012年春	
設備概要	詫間新工場(第三工場)を 拡張し増強	隣接空地に専用&一貫工場を 新設	日本(大野原工場)、 米国の工程を増強	
投資額 建屋・付帯設備 含む	約50億円規模	約30億円規模	約20億円規模	計15億円規模
特色・強み	主に大型材・高純度材に対応 可能な設備とし、さらなる差別 化・競争力向上を図る。	超大型材(2m超)等、差別 化・高付加価値品に対応可能 な設備。自動化・マテハンも 勘案した一貫ライン。	最先端の製法・工程と運営ノ ウハウを織込み、素材～加工 ～コーティング～検査一貫の 強みをさらに強化。	「既存競争力の強化」と「将来 の事業の柱の構築」を推進。

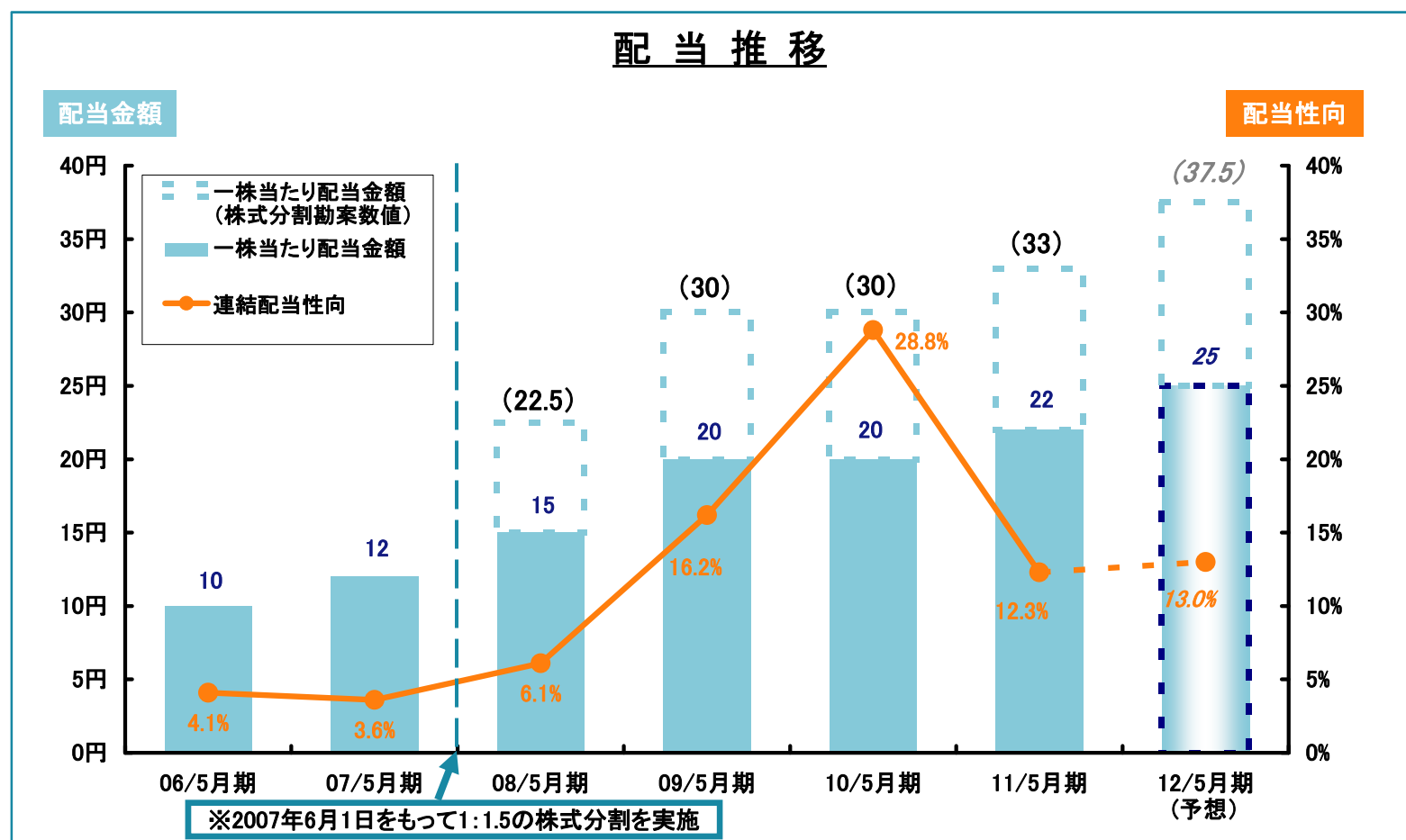
4. グローバル展開の加速

- 海外売上比率は63.7%と大幅続伸。アジア(47.8%)のプレゼンス拡大。
- 特に中国の売上高比率は36.7%と急拡大。半期として初めて日本の売上高を凌駕。
- 今後も「地産地消」「最適地生産」の考えの下、新たな地域への進出・展開を模索中。



5. 成長企業としてバランスある株主還元を志向

成長への再投資とのバランスも勘案しつつ増配を継続



東洋炭素株式会社

2012年5月期第2四半期 決算説明資料

第3部 補足資料

補足資料1 製品・分野別概況 ポイントおよび今後の見通し(1/2)

	用途	用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し
		11/5月期 3,4Q	12/5月期 1,2Q	12/5月期 3,4Q予想	
特殊黒鉛製品	エレクトロニクス分野				
	太陽電池製造用				- 前下期に引き続き増勢の流れがさらに加速。主力の中国を中心にアジア地域の需要が大幅に続伸。欧州・北米も健闘。価格の底上げも寄与し、通期の売上高としては前年同期比で1.5倍以上、前下期比でも約2割増と、特に1Qを中心に急拡大。 - ただし急拡大の反動と供給過剰感から秋口以降は調整局面を迎えており、少なくとも下期一杯は調整は避けられない見通し。調整の度合いと期間は現段階では算段し難いが、調整自体は当初から想定していたことでもあり、堅調かつ振幅の小さい一般産業用や機械用カーボン等を中心に、幅広い分野での拡販に注力しカバーに努める。 - 一時的な調整局面をはさみながらも、中長期的な成長用途であることに変わりはなく、今後を見据えたコスト低減・差別化も含めた競争力強化ならびに新規開拓を推進する。
	単結晶シリコン製造用				- ウエハーメーカーの稼働率は全般に低調。一部スマートフォン等の好調な分野あっても、半導体市場の回復にはもう少し時間を要する見込み。 - 上期は結果として1~2割増水準。当面は低調に推移する見込みなるも、今やウエイトも小さく全体への影響は軽微。
	一般産業分野・その他				
	放電加工電極用				- 主力の海外においては、新興国を中心とする自動車・家電産業の伸長を受けて、黒鉛需要は引き続き堅調。 - 国内は、円高等にともなう構造問題も含めて金型業界の状況は厳しいが、自動車の更新需要もあり踏み止まっている。まだ開拓余地のある精密分野や、素材不足のため対応出来ていなかった売り先への拡販を推進する。
	連続鑄造用・冶金用他				- 景気持ち直しと、新興国のインフラ投資を背景に、国内外とも全般に堅調。特に工業炉の炉内パーツが引き続き好調。 - 国内は震災の間接的影響が懸念されたが復旧も順調に進展。自動車関連等の底堅さを背景に、今後も堅調に推移予定。

補足資料1 製品・分野別概況 ポイントおよび今後の見通し(2/2)

	用途		用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し
			11/5月期 3,4Q	12/5月期 1,2Q	12/5月期 3,4Q予想	
一般カーボン製品	機械用	一般産業用	→	↗	↗	・ 拡販が順調に進展。殆どを占める国内は、主力の軸受け・シール材がポンプ・エアコン・プラント向け等を中心に好調に推移。震災復興関連需要も後押し。 ・ 展開が遅れていた海外は、拡大余力大きい。生産体制の整備含めて、今後の拡大を志向。
		輸送機械用	→	→	→	・ 景気変動の影響少ないパンタグラフ用すり板は、引き続き安定的に推移。海外展開に向けて引き続きワーク推進中。
	電気用	小型モーター用	↘	→	→	・ 欧州は相対的に堅調なるも、主力の中国市場を中心に価格下げ圧力強く苦戦。海外売上高比率が高く(8割超)円高による目減りも痛い。 ・ ただし景気変動による振幅は比較的小さく、中長期的には新興国需要を背景に漸増を見込む。グローバルなコスト競争力ならびに開発力の強化を推進。
		産業用・自動車用他	→	→	→	・ 産業用・自動車用とも、景気持ち直しを背景に緩やかながら回復基調継続。今後も底堅く推移予定。
複合材その他製品	主要3製品	SiCコーティング 黒鉛製品	→	↗	→	・ 拡大期待の大きい化合物半導体用は、LED関連の急拡大の反動にともなう調整が長引いている。一部回復の兆しが見られたものの、LCDバックライト用の低迷を主因に本格的回復には未だ時間を要する見込み。 ・ 半導体関連(Si-Epi用等)は回復基調にあったが終盤に失速。コーティング品全体としては、上期では微増水準に留まった。下期も微増水準の見込み。ただし中長期的な成長分野であることは変わりなく、素材～加工～コーティングの一貫競争力をさらに高めて優位性を確保していく。
		C/Cコンポジット製品	↘	↗	↘	・ 半導体用大型ルツボは、主要顧客の在庫調整も解消し需要回復。売り先も拡大しつつあり、市況不透明な中でも堅調に推移。 ・ 太陽電池関連は、国内外とも好調を持続。複数のプロジェクト案件ならびに核融合炉向けのスポット納入も随時入る等、順調に拡大。ただし太陽電池市場の変調の影響は注視要。 ・ 工業炉向けも引き続き堅調。C/C全体として、上期では前年同期比で約2割増となった。下期はスポット案件減るため減少となるが、成長の流れに大きな変化はない見込み。
		黒鉛シート製品	→	↗	↘	・ 全般に緩やかな回復基調継続し、上期では前年同期比約1割増水準。半導体用の先行きは不透明なるも、自動車用を中心に今後も底堅く推移する模様。

補足資料2 2012年5月期第2四半期 貸借対照表

(単位:百万円)

	10/11月末	11/5月末	11/11月末	ポイント
資産合計	61,894	65,191	67,233	①受取手形及び売掛金 売上高増加により11/05末比 1,346百万円増加。
受取手形及び売掛金	12,214	13,047	14,393	
たな卸資産	11,339	12,454	13,637	②たな卸資産 中間在庫の計画的積み増し等により11/05末比1,182百万円増加。
有形固定資産	26,979	26,162	26,158	
負債・純資産合計	61,894	65,191	67,233	
有利子負債	2,850	2,071	1,789	
資本金	7,692	7,692	7,692	
純資産	49,711	51,748	53,224	
自己資本比率	78.5%	77.5%	77.0%	

補足資料3 2012年5月期第2四半期 キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	11/5月期 第2四半期	12/5月期 第2四半期	ポイント
現金及び現金同等物の 期末残高	5,745	6,909	
現金及び現金同等物の 増減額	▲56	▲181	
現金及び現金同等物の 期首残高	5,802	7,090	
営業活動によるCF	3,702	2,484	①営業活動によるCF 売上債権および棚卸資産の増加により減少。
投資活動によるCF	▲3,915	▲1,754	②投資活動によるCF 有形・無形固定資産の取得による支出の減少により、使用した資金は減少。
財務活動によるCF	308	▲729	③長期借入金の返済により、資金の使用が増加。

TOYO TANSO

Inspiration for Innovation



(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

＜お問合せ先＞

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL:06-6451-2114(代) FAX:06-6451-2186

E-mail: ir@toyotanso.co.jp